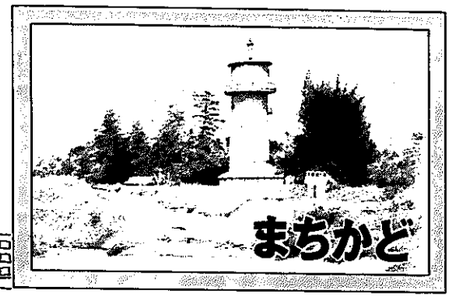
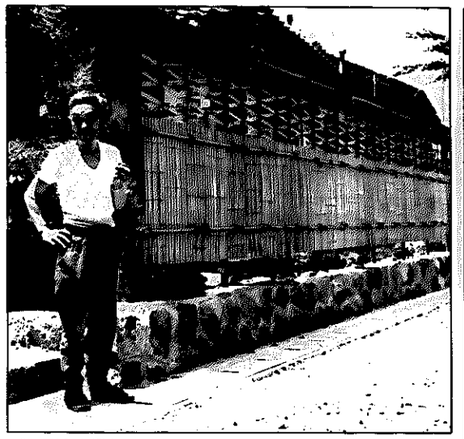


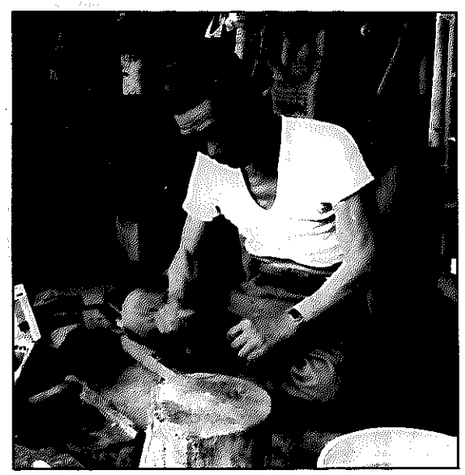
こんにちわ

竹細工作りが趣味そして生きがい

江平幸平さん（農業・菱潟第二）


竹垣は４月に完成

作品を前にして語る江平さん


仕事部屋で

信濃川沿いの堤防を、臼井から庄瀬に向かって走り、菱潟に入ると堤防下のすばらしい竹垣が目にとまります。

これは、江平さん宅の竹垣で、昨年、道路改修の際に家の周りの樹木が切られたことから、江平さんが手作りで建てたものです。

「いつかは自分でも作ろうと思っていたんです。それで旅行に出かける時は、いつもスケールを持ち歩き、すばらしい竹垣を見つけると、その寸法などを手帳にメモしていました。それが今回、役に立ちましたよ」と話します。

若い時から物を作るのが好きだったと言う江平さんは、十年前から竹細工作りに取り組んでいます。

「おばあちゃんが生け花をやっていて、竹で花器を作ってやった」のが始まりでした。

以来、納屋の一角を仕事部屋に改良して、いろんな形の花器を作ってきました。稲や果樹をやっていることから、竹細工作りは農閑期に行います。材料となる孟宗竹は、毎年十一月に田上町の知人から譲り受けてきます。虫がついたり割れが入るのを防ぐため、お湯で煮てから使うそうです。

これまで約百個くらいの花器を作り、そのほとんどを近所や親類、友人に「ぜひ譲って」と言われ、あげたそうです。周囲の勧めもあって、今年の市展に作品を出品。美術工芸の部で教育長賞を獲得しました。

「いろいろ工夫しながら作る時が、最高に充実する時です。これからも趣味として、生きがいとして、作り続けていきたい」と話す江平さんです。

私の思い出 昔のわが街

村人の怒りをかったお地蔵様

語る人
大野重夫さん＝（七四）（下中村）

下中村の青地蔵

青地蔵は、三百七十年ほど前に、川に流れてきたものを、現在これを管理している橋本正文さん（下中村）の先祖の由兵衛という人が拾い、祭ったものだそうです。木造の座像で、高さは三十センチくらいあります。

今から百六十年くらい前、この地蔵様がいられるのに川切れになり、村を苦しめたというので、村人が怒り、オノで顔と足を切ってしまったと言われています。今でも、顔の部分にその時のものと思われる傷が残っています。それだけに当時の村人は、守り神と信じきっていたのでしょうね。

この青地蔵は、子育ての地蔵様として知られ、多くの信者がいます。私も小さいころ、親に連れられてよくお参りしたものです。今でも、近所はもちろん遠くからもお参りに来る人がいます。

白根人物伝

★小港勘七

白根市大字茨曽根字道潟の人。豪侠で人の難を助けるために体をはることを辞さなかったので郷人は勘七を畏敬した。茨曽根は村上領、隣村は新発田領で反目紛争がたえなかった。安政四年（一八五七年）茨曽根は関根倉之丞を監督として丸海潟の開拓をはじめた。隣村戸頭ほか十七か村の新発田領は、水利をはばむと抗議し、工事の進むのを見て数百名が開拓地に乱入し、浮浪者徳次郎を首として乱闘した。徳次郎は誰かに腹部をさされ遂に死んだ。茨曽根側の勝利となったが、倉之丞外重立数人が殺人容疑で捕えられた。これを見て勘七は自分が徳次郎を殺したといつわり、倉之丞等を救い投獄された。獄中ではよく獄則を守り他の囚人をさとしついに牢名主となった。十数年後、明治維新となり許された。村民はこれを迎えて厚く遇した。明治十八年に七十四歳でなくなった。

（中蒲原郡誌から要約）

「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。